

令和元年度 翔洋学園高等学校経営計画

1 学校の現況

【過程・学科】 広域通信制・単位制

【理事長】 佐藤 睦美 【校長】 中村 昌平 【教頭】 高野 佳規

【事務局長】 吉成 秀晴 【事務長】 飯村 信弘

【教職員数】 128名（令和元年5月1日現在）

校長	1	副校長	0	教頭	1	教諭	34	養護教諭	1
常勤講師	1	非常勤講師	78	事務職員	8	非常勤事務	4		

【生徒数】（令和元年5月1日現在）

1年次		2年次		3年次		合計	
男	女	男	女	男	女	男	女
219	213	441	431	504	483	1,164	1,127

2 目指す学校像

自分で考え、主体的に行動し、世界に羽ばたき、未来を創造していく人間の育成を理念とし、「自由・自主・自立」の校訓のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、明日の社会を担う人材への成長、育成に努める。また、生徒が「自分育て」をしながら、未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習指導	個々の学力の幅が広く、個別での対応を重視している。近年、不登校経験者の入学が増加し、基礎学力が定着されていない、また学習に対する意欲にかける生徒が多い。	・基礎学力の定着 ・学習意欲を持たせる継続的な指導 ・ICT教育の導入の検討 ・家庭との連携推進
進路指導	卒業後の進路決定者は増えつつある。一方では進路に対する意識が薄い生徒もいる。年次ごとに段階を経た進路指導を実施し、進路に対する意欲を高め、将来の夢や目標をもてるように支援している。	・進路決定率の向上 ・年次進行における進路指導 ・進路情報の提供 ・望ましい勤労・職業観の育成 ・家庭との連携推進
生徒指導	基本的な生活習慣の定着が図り切れていない生徒が多い。また、内面的に課題を抱えている生徒も増えている。定期的にスクールカウンセラーや担任との面談を通して改善が見られる生徒もいる。保護者との連携を図り情報を共有しながら対応にあたっている。	・基本的な生活習慣の確立 ・教育相談の充実 ・家庭とのより密な連携、関係構築 ・出身中学校、前籍校との情報の共有
特別活動	積極的に行事等に参加する生徒が増え、良好な交友関係を築いている。更に一人ひとりの個性を生かすため、生徒の活躍できる場を多く設定している。半面、集団行動に適応出来ない生徒も多い。HRや各種行事を通してコミュニケーション能力の定着を図っている。	・学校行事の工夫改善 ・地域性を活かした特色ある教育活動の推進 ・各種大会等への参加奨励

4 中期的目標

- 自ら考え、主体的に行動できる生徒を育成する。
- 豊かな心をもつ人間性を育てる。
- 多様な課題を抱える生徒の支援・育成をする。
- 21世紀を担うリーダーを育てる。
- 働きながら学ぶ生徒、自宅で学習する生徒を支援する。

5 本年度の重点目標

重点項目	具体的目標
1 個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた適切な個別に対応した学習指導を行い、学力向上を図る。また、生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように支援する。
2 心の成長を重視した道德教育の充実	道德教育の充実を図り、一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え、自ら判断し行動できるような生徒を育成する。
3 学校並びセンター行事の創意工夫	魅力ある学校行事または各センターの行事を企画、運営し、様々な行事を通して、より良い人間関係（教師と生徒、生徒同士）を深め、充実した高校生活を送れるよう支援する。
4 地域との連携の充実	出身中学校、前籍校との連絡を密にし、情報を共有し合い、生徒一人ひとりに成長を図る。また、保護者会の開催、面談を通して連携を図り、協力しながら生徒を支援する。
5 多様な課題や問題を抱える生徒への支援	各生徒が抱える悩みや課題を解消できるように、一人ひとりに寄り添い、担任、スクールカウンセラーそして家庭との連携を図り支援する。

令和元年度

学校経営計画=(教育計画・評価表)

目指す学校像	自分で考え、主体的に行動し、世界に羽ばたき、未来を創造していく人間の育成を理念とし、「自由・自主・自立」の校訓のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、明日の社会を担う人材への成長、育成に努める。また、生徒が「自分育て」をしながら、未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。
--------	---

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
個々に応じた丁寧な学習指導、進路指導の実践、また各種行事等で一人ひとりが活躍できる場を設定し、積極的な参加がみられ、教育的効果をあげることができた。多様な課題を抱え入学してくる生徒への適切かつ継続的な対応が求められる。	個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた適切な個別に対応した学習指導を行い、学力向上を図る。また、生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように支援する。	C
	心の成長を重視した道徳教育の充実	道徳教育の充実を図り、一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え、自ら判断し行動できるような生徒を育成する。	B
	学校並びセンター行事の創意工夫	魅力ある学校行事または各センターの行事を企画、運営し、様々な行事を通して、より良い人間関係（教師と生徒、生徒同士）を深め、充実した高校生生活が送れるよう支援する。	B
	地域との連携の充実	出身中学校、前籍校との連絡を密にし、情報を共有し合い、生徒一人ひとりに成長を図る。また、保護者会の開催、面談を通して連携を図り、協力しながら生徒を支援する。	C
	多様な課題や問題を抱える生徒への支援	各生徒が抱える悩みや課題を解消できるように、一人ひとりに寄り添い、担任、スクールカウンセラーそして家庭との連携を図り支援する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の定着 「読む」「書く」「話す」「聞く」力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き、四字熟語、故事成語、語句の意味調べ等、辞書を活用する内容をレポートに盛り込み、基礎基本を身につける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「話す」「聞く」力の育成がレポートだけでは困難なので、HR活動やスクーリング、個別学習指導時などに盛り込めたらと考える。
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを短い文章にまとめる活動や、古典の調べ学習、国語総合や現代文での俳句の創作活動を通して、「読む」「書く」力や、問題解決能力の育成を図る。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 国語表現でのインタビュー活動を通し、「話す」「聞く」力の育成を図る。 	B	
地・歴	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる知識の獲得 俯瞰的視点の獲得 個人ごとの知識量の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書通読の指導。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度に合わせて、様々な選択が可能になるように、必修科目のレベル分けや問題内容の再検討、学校設定科目の増設や内容の見直しなど、これまでの考え方にとらわれない教材づくりの実施。 民法改正に即した、具体的な消費者教育。
		<ul style="list-style-type: none"> 同時代比較を解説・問題に取り入れる。 	D	
		<ul style="list-style-type: none"> 解説の充実。 	C	
公民	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる知識の獲得 最新の情報と繋がる知識の獲得 個人ごとの知識量の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書通読の指導。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 民法改正に即した、具体的な消費者教育。
		<ul style="list-style-type: none"> 主権者教育の実施 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 消費者教育の実施（他教科との連携も視野に入れ） 	B	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着 苦手意識の払拭 現実世界との関連性の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた添削課題の作成と地道な個別指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 難易度設定を幅広くしてはいるものの、基礎基本の定着や苦手克服に向けてより工夫が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習を通して、現実世界との関連性への理解を図る。 	C	

理 科	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な自然現象における規則性を理解させる。 探求の課程を踏まえた学習活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 充実した内容のレポート作成と、生徒個々のレベルに合わせた個別学習を強化する。 	A	C	<ul style="list-style-type: none"> 探究を踏まえた学習を各学習センターが円滑に行えるよう実験、実習の提示をし、促す。 観点別学習評価の導入。
		<ul style="list-style-type: none"> 各学習センターでの校内外学習の内容を閲覧できるようにし、校内外学習での、実験・観察のさらなる充実と推進を目指し、自然への興味関心を高め、科学的なものの見方や考え方を養う。 	D		
保 体	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続しようと思う気持ちを高める。 コミュニケーション能力の育成、人間性の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な実技スクーリングに限らず、センター内での運動に関わる行事等を実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学習センターで、様々な取り組みをしてくれている。次年度は出席率を上げていくことを考えなければならない。センターの負担を軽減する意味でもメディアスクーリングの推奨。
		<ul style="list-style-type: none"> 運動における協働の経験を通して、互いに協力すること、一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲を育てる。(性別、体力、障害、技能の違いなど) 	A		
芸 術 (書道)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面に対応する書写能力の基礎の定着をはかる。 自己表現の能力の向上、書の美しさを感じ取る鑑賞力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の実例集を更に増やし、各センターで活用できるように準備する。 	D	D	<ul style="list-style-type: none"> 各学習の目標に照らし合わせ、きめ細やかな添削指導をする。 芸術と実用との観点から書くことの楽しみや意欲を育てる取り組みを働きかける。 実技課題の取り組みの中で、教科書を活用する機会を増やせるよう工夫する。
		<ul style="list-style-type: none"> 書写能力の基礎の充実を図るべく、充実した課題を作成する。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中での書や硬筆に対応した課題を作成する。 	C		
		<ul style="list-style-type: none"> 履歴書や手紙（お礼状）の実例手本を作成する。 	D		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を図かる 「読む」「書く」「話す」「聞く」「伝える」力の育成 大学入学共通テストに向け外部検定試験の積極的受検 	<ul style="list-style-type: none"> 各学習センターで生徒のレベルに応じた学習指導を行う。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 外国語科の「話す」「聞く」「伝える」力の育成は、レポート学習だけでは限界がある為、普段の学習時やスクーリング時にアクティブな活動が取り入れられないかが課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> 「読む」「書く」力はレポート課題を主とした活動を通して、「話す」「聞く」「伝える」力は、各学習センターの特色を生かした校外学習等の機会を設ける。 	C		
		<ul style="list-style-type: none"> 受検対象者に向けた、個別指導や対策授業等を行う。 	C		
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な知識・技術の習得に努める。 生活を工夫し創造する能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの技術に応じた個別指導をするとともに、きめ細やかなレポート添削をする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 民法改正に伴い、添削指導以外での消費者生活分野における指導の充実を目指す。さらには健康の増進という観点から、食育の推進に努めていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 消費者生活、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉などのようにライフステージごとに生徒自身の問題としてとらえさせる。 	A		
情 報	<ul style="list-style-type: none"> 情報と情報技術活用能力の育成 問題解決に向けて情報と情報技術を活用する養う。 情報社会に主体的に感じる態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせた内容のレポートの作成をする。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> プログラミングを行う活動を体験学習もしくはスクーリングに導入する。 情報社会の一員としての自覚が持てる活動を実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルの理解やプログラミングの基礎をスクーリングで取り組む活動を盛り込む。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 情報の信頼性や信ぴょう性を見極めたり確保したりする能力の育成をスクーリングやホームルーム活動に盛り込む。 	B		

学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領改編や生徒の実態に即した学習指導 ・入試改革への対応 ・明日に向けた教材開発 	・教科を超えた横断的な学習活動を行う。	D	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の増加に伴い、より一層生徒の学力幅が広くなり、個に応じた教材の提供が困難になっている。 ・新学習指導要領に示された教科横断的な学習活動について、添削指導・面接指導へどのように取り入れることができるのか、検討が必要。
		・科目によって高大接続や新テスト導入に対応できる学習カリキュラムの構築や適応障害等をもった生徒にも理解できるだけの内容のレポートの作成を行う。	D		
		・スクーリングにおいて、体験学習を積極的に展開し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた内容改善	C		
		・不測な社会に柔軟に対応し、たくましく生き抜くための明日力の涵養をめざし、総合的な探究の時間でPDCAサイクルを取り入れた自己の課題解決法を身に付ける。	C		
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団活動を通して、基本的な生活習慣の確立と個性の伸長を図り、自主的、実践的な態度を育てるとともに人間としての在り方生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う。 	ホームルーム活動 ・豊かな心を育む教育活動の中で望ましい人間関係を形成し、社会的に自立しようとする自主的・実践的な態度を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの実施を踏まえ、共通理解を図った上でHR活動を行う。 ・コロナウィルスの影響を考えた上で、行事の計画・実施を行う。
		学校行事 ・生徒一人ひとりが、心身の健康・仲間との協同が図れるように校内外における様々な教育活動や生活体験発表会、校内芸術展の開催、食育、定時制通信制体育大会、文化活動等に積極的に参加を促し活動を通して自己に自信を持ち、心身ともに豊かでたくましい生徒を育成する。	B		
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める。 ・生徒一人一人に応じた進路指導の充実を図る。 	・各センターで生徒に応じた様々な進路活動を定期的に行い、職業観の育成や希望進路実現に向けての指針を与え、進路に対する意識の高揚を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次から卒業後の進路を考える行事を定期的実施する。 ・大学入試改革に伴い、傾向と対策についての情報提供。
		・ホームルーム活動、履修相談、二者・三者面談等を通して、能力の適性に応じた進路選択ができるようにする。また、進学・就職それぞれの指導を一人一人に応じた指導を細やかにを行う。	B		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なモラル、公共心規範意識の向上 ・いじめ撲滅 ・生徒理解に努める ・危機管理体制の確立 	・教育相談等を活用し、生徒一人ひとりを理解する。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ実態調査後の生徒の把握の徹底。 ・HRやスクーリング時において可能な限り時間を確保し、規範意識の向上を図る。 ・各学校や関係機関との密な連携。
		・いじめの実態調査と結果の周知徹底を図る。	C		
		・学校外での生活等、巡視行い規範意識を向上させる。	C		
保健環境・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康と健康保持増進に必要な自立能力の育成を図る。 ・環境衛生と安全管理の徹底に努める。 	・健康診断や健康調査により、生徒の健康管理を図る。（事後措置の徹底）	D	C	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を各学習センターの実情に合ったものに見直す ・健康診断、歯科検診の事後措置を徹底する ・歯科受診の勧めの強化および保健指導の実施
		・ホームルームや保健だよりにより、生徒の健康の保持増進について意識高揚に努める。	B		
		・施設設備の点検の充実を図り、環境の整備事故防止に努める。	C		
センター運営	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内での情報の共有を図る。 ・生徒の居場所となる雰囲気づくりに努める。 	・定期的に打合せを実施し、一人ひとりの生徒の情報を共有し、対応にあたる	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・各センターの状況や課題を全センターで共有し、組織的に解決できるようにする。
		・多様な学びの場となり、生徒同士が交流を深められるような雰囲気を作る。	B		

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を活かし，特色ある運営を推進する。 ・保護者との連携の強化。 ・出身中学，前籍校との連携の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した特色ある教育活動を展開し，活動内容を発信する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対応の質を高めるため，センター開校にメリハリをつける。 ・全センターで保護者会を実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の開催。 	C	
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動において，情報の共有を図る。 	C	

【評価基準】 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない